

ひろしまの遺跡

第131号

海城跡の発掘調査

— 沖の城跡 (東広島市安芸津町風早) —



空中写真 (北東から) ○は東城跡・△は西城跡

沖の城跡は、『芸藩通志』*によると「本崎山 (東城跡) 風早村にあり、一に東城といふ、甲斐の弟修理所守、又此墟の東海辺に、沖の城、又繫船場などとよぶあり、皆本崎城の属地なり」とあり、西城跡は修理の兄である林甲斐が城主で、小早川氏の家臣でした。

前 (130) 号の紹介後に、最上段の平坦面から基盤層を掘り込んだ土坑を1基確認しました。土坑の径約30cmで、土坑内深さは約1cmで炭化物が多く含まれていました。城として使用していた頃の遺物が出土していないため時期が明らかにできませんが、土坑内の炭化物で年代測定を行う予定です。

北側の段は壁の清掃と壁際を基盤層まで掘り下げて竖堀の確認を行いました。谷状の落ち込みがあり上段から下段に向かって幅が広がっていることから自然の谷と判断しました。(山田繁樹)

*芸藩通志 江戸時代後期の地誌。

解説は『安芸津町通史編』(249頁)による

発掘調査速報

沖の城跡（船繫場跡）

調査期間 令和5年6月26日～12月22日

城跡の北に位置する池の調査では、池の堆積層（南半部分）を除去して遺構の確認を行いました。池底の泥土の下に砂層の広がりを確認できました。この砂層が海水性かどうかの分析を行う予定です。

池の西面と北面で根石下に胴木をかませた石垣を検出しました。この石垣は、石垣に伴う遺物が出土していないため、時期は不明です。池の南側では、舌状に広がる高まりがあり、池上段の崖土が崩落し堆積（厚い箇所80cm程度）していることが分かりました。

崩落土内から旧石器時代の石核と台形様石器・弥生土器片が出土しています。崩落土を除去すると池の砂とは違う砂層が堆積しており、砂層中からは舟形木製品や木製匙・漆碗・下駄や硯片などが出土しました。

砂層を除去すると南側を竪穴建物跡のように掘り込み、壁際には幅20cm程度の溝が確認できました（SX1）。長さは約12m、壁上面からの深さが60cm程度で底面の北側は攪乱を受けていましたが、最大幅は1.6mで床面の標高は約2.5mです。杭や柱穴は確認できませんでした。また、舟形木製品や木製匙・硯片は、福山市草戸千軒町遺跡から出土している木製品と似ていることから中世に遡る可能性もあります。今後、木製品も年代測定を行う予定となっているので、SX1の時期が明確になると思われます。船繫場であったかどうかについては今後、類例の調査を行い判断していきます。少なくとも、江戸時代後期の『芸藩通志』や『風早村国郡志書出帳』*に記載されているように、調査地周辺は地形的にも入江状の谷部に水が入り込んでおり、中世に船の往来も想定される環境であったと考えられます。（山田繁樹）

*芸藩通志の編集の為に作成された文書のひとつ。





横田1号遺跡（東広島市西条町寺家）

調査期間 令和5年10月10日～令和6年2月9日

都市計画道路吉行飯田線の建設工事に伴い、昨年度に続いて発掘調査を実施しました。横田1号遺跡は、龍王山から派生する南向きの丘陵上に立地しています。昨年度までの調査で、弥生時代を中心とする集落跡であることがわかっていました。今回調査した結果、350基を超える数の遺構を確認しました。遺構の種類は、竪穴建物跡、貯蔵穴、溝、柱穴、ピット、土坑等です。主要な遺構を紹介します。

昨年度の調査区に近い区域では、竪穴建物跡と貯蔵穴をセットで確認しました。竪穴建物跡は、上端が円形（直径約2.8m）、下端が隅丸方形（一辺約2m）と小さめで、深さは約70cmでした。竪穴の住居跡によくみられる、壁沿いに掘られた溝、貼り床等の構造は確認できず、簡単なつくりをしていました。遺構に流れ込んだ土のなかからは、弥生時代前期の土器がまとまって出土しました。隣りにある貯蔵穴は直径約1.1m、深さ約70cmでした。この他、弥生時代と考えられる遺構には、掘立柱建物跡、土坑、ピット、別の貯蔵穴等があります。

竪穴建物跡を確認した区域の西隣の区域では、江戸時代と考えられる溝、柱穴列、掘立柱建物跡等を確認しました。幅50～60cm、深さ約20cmの細い溝から、江戸時代の陶磁器や土器類が多く出土しました。同じ区域で、直径40～45cm程度の素焼き甕を埋めたものが見つかりました。肥料等を入れた可能性があります。また、調査区の北寄りでは炭、骨、石が入った、長さ約90cm、深さ20cmの土坑を確認しました。

今回確認した遺構は、弥生時代、江戸時代以降の二つの時期に大きく分けることができます。昨年度の調査区では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺構が中心でしたが、今回確認できた遺構群とは中心となる時期に違いがあります。遺跡の評価は、今後の整理作業で詳細に検討していく予定です。

（村田 晋）



調査区全体の空中写真（真上から）



炭・骨・石を含む土坑（北西から）



埋められた甕（北東から）



竪穴建物跡の土層断面（南西から）



竪穴建物跡の隣りの貯蔵穴（南東から）

調査報告会を行いました

今年度調査した遺跡の報告会を行いました。現地説明会や報告会は、地域の方に発掘成果を報告する大切な場です。まずは2月3日（土）に福山市教育委員会と共催で、中山城跡（福山市草戸町）の報告会を開催しました。中山城跡は令和5年5月～9月にかけて調査を行いました。現場が急斜面であることや、日影がないことなどから安全面を考慮し、遺跡現地での説明会ではなく、草戸町の交流会館での開催となりました。

当日は調査報告だけでなく、福山市教委や広島県立歴史博物館の学芸員による、中山城跡を取り巻く環境や出土遺物等についての発表もあり、会場はほぼ満員となりました。

2月11日（日）には、東広島市が開催した令和5年度出土文化財報告会に参加しました。当室からは横田1号遺跡（西条町寺家）と、沖の城跡（安芸津町）の調査報告を行いました。当日の様子は東広島市の公式Youtubeチャンネルでもご覧になれます。

また、2月18日（日）には福山市が開催した文化財講座「2023年度ふくやまの遺跡を語る（市内発掘調査報告会）」に参加し、当室からは中山城跡と正藤遺跡（神辺町）の調査報告を行いました。

報告会でお話した内容は、いわゆる速報にあたるので、今後整理作業を進めていく中で、様々なことが明らかになってくると思われます。発掘調査が終わっても、調査員と遺跡の関係は続く・・・。



当室主催の報告会



当室主催の報告会（中山城跡）



東広島市開催報告会（横田1号遺跡）



東広島市開催報告会（沖の城跡）



福山市開催報告会（正藤遺跡）



福山市開催報告会（中山城跡）

令和5年度

ひろしまの遺跡を語る

令和6年1月27日(土)に、広島県民文化センター多目的ホールにおいて、令和5年度「ひろしまの遺跡を語る」を開催しました。当事業団職員による今年度調査した遺跡の調査報告4本と、名古屋市立大学教授・奈良大学特別教授の千田嘉博先生に「埋蔵文化財と城郭考古学」というテーマでご講演をして頂きました。先生の講演の中には、広島城や郡山城といった広島県が誇る有名なお城だけでなく、当事業団が調査した山城も登場し、報告書とは異なる新たな解釈をお話頂くなど、とても勉強になりました。

当日は発掘調査で見つかったばかりの遺物の展示も行いました。非常に盛況で、こちらも多くの方が見学してくださいました。

今年度は往復ハガキによる事前申込でしたが、292名という多くの方にご参加頂きました。また、広島県以外にも、九州や中部など遠方の地域からの参加もあり、広く当事業団を知って頂ける機会になったのではと思います。

主催 (公財) 広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室
広島県教育委員会

令和5年度 「ひろしまの遺跡を語る」

日時 **1月27日**
12:50~16:10(開場12:00)

定員 **450名**(要申込・応募者多数の場合は抽選)

会場 **広島県民文化センター**
(広島市中区大手町一丁目5-3)

聴講無料
事前申込

日程

12:50~13:00	開会行事
13:00~13:20	調査研究報告I 【正徳遺跡の発掘調査】 事業団職員 村田 智
13:20~13:40	調査研究報告II 【高嶺第2号古墳の発掘調査】 事業団職員 野田 悠
13:40~13:55	調査研究報告III 【中山城跡の発掘調査】 事業団職員 坂本 芳幸
13:55~14:10	調査研究報告IV 【沖の城跡の発掘調査】 事業団職員 山田 聖哉
14:10~14:30	休憩(事務連絡・展示見学)
14:30~16:00	講演 【埋蔵文化財調査と城郭考古学】

16:00~16:10 閉会行事

【お申込方法】往復はがきに裏面の通り記載して申送ください。電話・FAX・Eメール等での申込は無効です。

(公財) 広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室
〒735-0038 広島県広島市東区新町丁8番-49
TEL:082-295-5751 FAX:082-291-9951

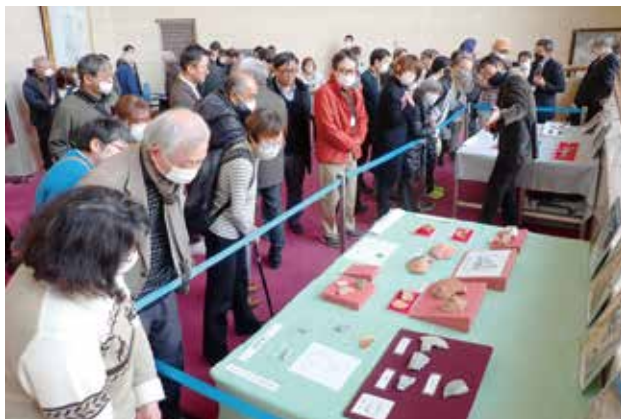
広報用チラシ



調査研究報告の様子



千田先生講演の様子



出土遺物の展示



展示を見学される千田先生

考古学 アラカルト 60

情報求む！その2 貯蔵穴を伴う 竪穴建物跡

令和6（2023）年に発行された、石鎚権現遺跡E地点の報告書内で竪穴建物内に伴う土坑の内、SI3は床面に4基あり、類例を広島県内では2例目としています。

今回、新たに古市4号遺跡で確認したので改めて紹介します。（調査された方から、教えて頂きました。）

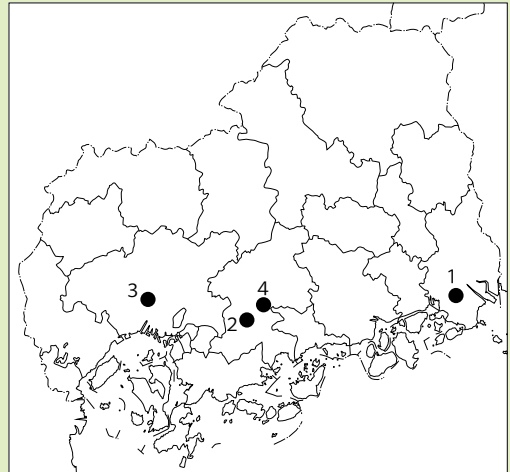
土坑の性格を貯蔵穴としたのは

- 1 土層の観察から、建物跡が埋って掘りこんでいない。
- 2 建物跡の埋土を除去してから、床面で確認した。
- 3 柱穴と重複していないこと。
- 4 底の深さが、ほぼ同じ。
- 5 柱穴と柱穴の間に位置するという規則性がみられる。
- 6 木製の板で蓋をすれば、床面の空間を使用できる。

以上のことから、建物跡に伴うと判断をしました。

貯蔵穴の平面の形は、円形が多いですが方形（長方形）もあります。中には上面の径が小さく、底の径が大きくなる断面の形状から「袋状土坑」・「フラスコ状土坑」・「袋状竪穴」などと呼ばれています。古くは縄文時代から出現し、広島県では横路遺跡（山県郡北広島町）で、弥生時代前期の袋状竪穴が発見されています。

写真の石鎚権現遺跡E地点のSK37は、上面径が0.9m、底の径が1.5mで、深さは1.9mです。上面から0.4mの箇所から徐々に広がっています。



遺跡位置図

- 1 石鎚権現遺跡E地点（福山市駅家町）
- 2 古市4号遺跡（東広島市西条町）
- 3 大明地遺跡（広島市安佐北区）
- 4 西8地点遺跡（東広島市高屋町）



石鎚権現遺跡 E 地点 SK37



石鎚権現遺跡 E 地点 SI3



石鎚権現遺跡 E 地点 SK37 完掘

このような貯蔵穴とした土坑がある場所は、

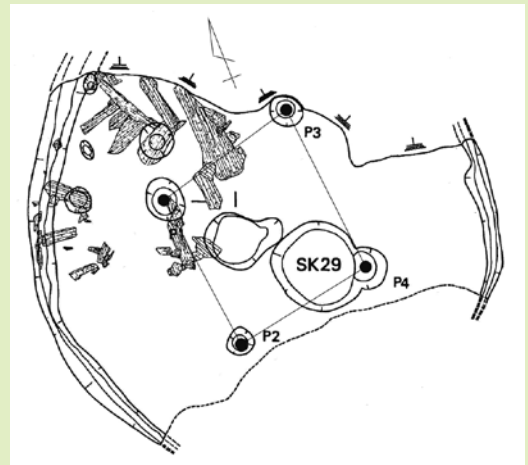
- 1 竪穴建物跡付近に位置する。
- 2 遺跡内で数基の群を構成する。
- 3 建物内に位置する。

大きくは、この3例に収まります。

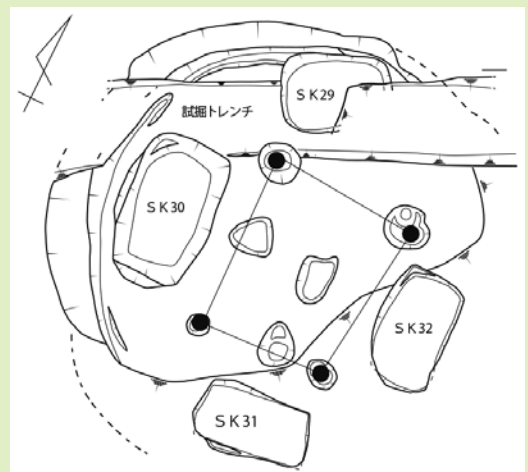
竪穴建物内に貯蔵穴が位置する例は1～2基が多いですが、4基の例は少ないと思われます。石鎚権現遺跡E地点のSI3の貯蔵穴はすべて長方形ですが、他の2遺跡は長方形と円形が混在しています。また、報告書内で主柱穴が2基としていますが、4基である可能性も考えられます。

これらの建物跡の共通点は、周囲の平地が見渡せる丘陵上に立地し、集落内では1軒のみであることから、特別な性格が考えられるかもしれません。

広島県内では3例ですが、同じ様な配置をした例を県外地域で探したのですが、確認しきれなかったのでお尋ねします。(山田繁樹)



貯蔵穴が1基の竪穴建物跡
西8地点遺跡 SB8

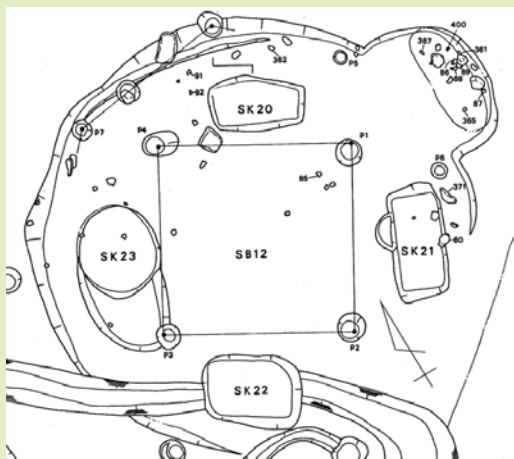


石鎚権現遺跡 E 地点 SI3

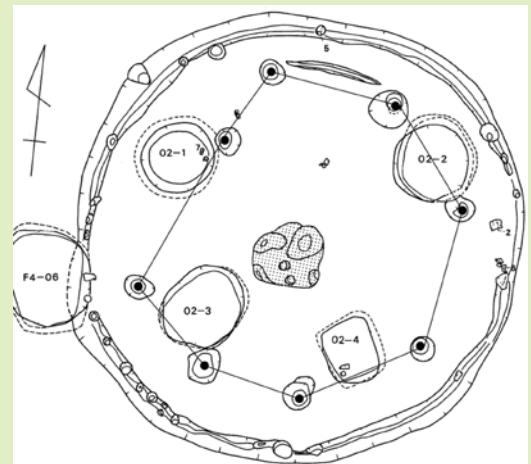
貯蔵穴を伴う竪穴建物跡一覧

遺跡名	貯蔵穴	径	柱穴	時期
古市4号遺跡 F4-02	4	6.5	8	後期後葉
大明地遺跡 SB12	4	5.4	4	後期中葉
石鎚権現遺跡E地点 SI3	4	(5.0)	2	後期前葉
西8地点遺跡 SB8	1	4.7	4	後期

() は推定値 時期は各報告書による。



大明地遺跡 SB12



古市4号遺跡 F4-02

*各図面の縮尺は1：100で、一部改変しています。

文献

- 1 『石鎚権現遺跡E地点 津之郷山守線(福山西環状線)道路改良事業に埋蔵文化財発掘調査報告書』 公益財団法人広島県教育事業団 2023
- 2 「古市4号遺跡」『西条第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書I』 東広島市教育委員会 1992
- 3 「大明地遺跡」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告IV』 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1987
- 4 「西8地点遺跡」『東広島ニュータウン遺跡群V』 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 1993

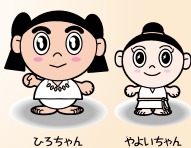
令和5年度は3冊の調査報告書および活動報告令和4年度ひろしまの遺跡の記録集を刊行します。頒布は令和6年4月1日より行います。ご希望の方は当室までご連絡ください。

	書名	市町名	概要	頒価
埋文報告 第91集	地頭分津ノ尾遺跡・地頭分津ノ尾第2～5号古墳	福山市	古墳時代中期に営まれた小規模古墳群である。いずれも円墳で、埋葬施設は削平を受けて不明な第5号古墳を除き、第2号古墳は箱式石棺、第3号古墳はおそらく箱形木棺、第4号古墳は粘土槨を備えた割竹形木棺であった。第2号古墳石棺内からは男性人骨1体分が出土し、棺外には鉄剣1、鉄鎌1が副葬されていた。 この他、遺構は不明ながら縄文、平安、鎌倉、戦国、江戸の各時代における活動痕跡を窺うことができる。	900円 (送料別)
埋文報告 第92集	亀居城関連遺跡(2)	大竹市	亀居城関連遺跡は、亀居城跡妙見丸の山麓に位置する近世の町屋跡である。第3次・4次調査で西国街道及び亀居城築城時の石垣・石列、町屋に伴うと思われる石垣等を検出し、これらに伴って多量の陶磁器類をはじめとする遺物が出土した。これらの状況は文献資料や絵図の記述と概ね一致しており、近世における街道や町屋の変遷を示す資料を提供できた。	1,800円 (送料別)
埋文報告 第93集	城ノ本遺跡	竹原市	本遺跡は形成・存続時期は15世紀中頃～末と考えられる。遺構及び遺物の内容などから屋敷(居館)の可能性が指摘でき、隣接する広島県史跡木村城跡との密接な関係が窺える。 貿易陶磁器(青磁・白磁・青花)、茶道具(三耳壺・風炉・天目椀)等の奢侈品が一括廃棄土坑等から多数出土している点や、京都系土師器・基石・硯等の城館遺跡に特徴的な遺物が目立つ点が注目される。	900円 (送料別)
活動報告 第12集	令和4年度「ひろしまの遺跡を語る」 ひろしまの遺跡2022-報告と講演-		大阪大学大学院教授福永伸哉さんによる講演「ヤマト政権の成立過程と三角縁神獣鏡」と、令和4年度に当事業団が調査した遺跡についての発掘調査報告の全記録。	600円 (送料別)
—	年報20	—	令和4年度における当調査室の実施した事業概要のまとめ。	—

あとがき

ひろしまの遺跡を語るでは、広い地域の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

6・7ページのアラカルトで取上げた、貯蔵穴をもつ竪穴建物跡について、類例をご存じの方はぜひお知らせください。128号に掲載した、弥生時代の可能性のある鉄椀についても、引き続き情報をお待ちしております。



ひろちゃん

やよいちゃん

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第131号

発行日 令和6年3月29日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

